

研究課題名	気管支肺胞洗浄液中の免疫バイオマーカーに着目した進行性肺線維症の鑑別と治療の試み
研究期間	2026年3月18日～2030年12月31日
研究の対象	2019年1月から2023年12月までに本院を受診された成人患者のうち、気管支鏡検査を受けた間質性肺炎患者さん。
研究の目的・方法	<p>○研究目的</p> <p>間質性肺炎は、特発性肺線維症（IPF）など多様な病型を含む難治性の肺疾患で、慢性的な炎症とそれに続く線維化を特徴とし、急性増悪も起こります。中でも IPF は最も予後不良ですが、近年、IPF 以外の間質性肺炎でも、線維化が進行し IPF と類似した臨床経過をたどる進行性線維化を呈する間質性肺疾患（PPF）が存在することが明らかになりました。PPF とそれ以外（non-PPF）の早期鑑別は、抗線維化薬による治療方針決定や予後予測に極めて重要ですが、診断時点での PPF 進行予測は困難で、有用なバイオマーカーが求められています。IgA は粘膜免疫の主要な抗体で、多量体構造をとる sIgA として呼吸器粘膜に存在します。近年、sIgA の肺線維症との関連が注目されており、肺線維症モデルや IPF 患者の気管支肺胞洗浄液（BALF）中で sIgA の上昇が報告され、高濃度の sIgA が線維化関連サイトカインの発現を誘導することが示されていますが、PPF における sIgA の臨床的・病態的意義は未解明です。また、肺にもマイクロバイーム（肺内細菌叢）が存在し、肺線維症ではその異常が疾患の発症・進展・予後に関与する可能性が示唆され、宿主免疫応答と菌叢の相互作用が新たな病態制御機構として注目されています。本研究は、PPF の早期鑑別に役立つ BALF 中の免疫学的バイオマーカーを同定し、特に sIgA と肺内菌叢の相互作用の臨床的・病態的意義を解明することを目的としています。この相互作用の解明は、PPF の早期診断バイオマーカーや新規治療標的の創出につながる可能性があります。</p> <p>○研究方法</p> <p>診療録（カルテ）内にあるデータを使用して、進行性線維化を呈する間質性肺疾患（PPF）の鑑別に有用な因子を検討します。また、気管支鏡検査時に得られた BALF の残余検体や肺生検検体の残余検体を用いて、免疫バイオマーカーを ELISA (Enzyme-Linked Immunosorbent Assay) 法で測定し、肺組織標本に対して免疫染色を追加で実施して検討を行います。</p>
研究に用いる試料・情報の種類	<p>情報：カルテから使用する内容は、患者背景、血液検査所見、画像所見、病理所見、臨床経過です。（個人を特定可能な情報は解析に使いません。）</p> <p>試料：BALF 検体、病理標本</p> <p>試料・情報の管理責任者：広島大学大学院医系科学研究科分子内科学 教授 服部 登</p>

利用または提供を開始する予定日	2026年3月18日（実施許可日以降）
個人情報の保護	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。
外部への試料・情報の提供	ありません
研究組織	本学の研究責任者 広島大学大学院医系科学研究科分子内科学 教授 服部 登
その他	特になし
研究への利用を辞退する場合の連絡先・お問合せ先	<p>研究に試料・情報が用いられることについて、研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合は、研究対象としませんので下記の連絡先までお申し出ください。お申し出による不利益が生じることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお、公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。</p> <p>また、本研究に関するご質問等あれば下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲内で、研究計画書および関連書類を閲覧することができますので、お申し出ください。</p> <p>広島大学病院 呼吸器内科 担当者：大学院生 乙原雅也，助教 下地清史 〒734-8551 広島県広島市南区霞 1-2-3 電話番号：082-257-5196</p>